

## 1. 調査報告概要表

作成日 平成21年12月11日

## 【認知症対応型共同生活介護用】

## 【評価実施概要】

事業所番号	2770900856
法人名	医療法人 杏仁会
事業所名	グループホームブルーベリー
所在地	高槻市東和町57-1 (電話) 072-671-0441

評価機関名	社会福祉法人 大阪府社会福祉協議会
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1番54号 大阪社会福祉指導センター内
訪問調査日	平成 21年 11月 25日

## 【情報提供票より】(平成 21年 11月 9日事業所記入)

## (1) 組織概要

開設年月日	平成 10年 10月 15日		
ユニット数	1ユニット	利用定員数計	9人
職員数	8人	常勤 6人, 非常勤 2人, 常勤換算	6.5人

## (2) 建物概要

建物構造	平屋木造 造り		
	階建ての	階 ~	階部分

## (3) 利用料金等 (介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(200,000円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,575円		

## (4) 利用者の概要 (平成 21年 11月 9日現在)

利用者人数	9名	男性	2名	女性	7名
要介護1	2名	要介護2	5名		
要介護3	2名	要介護4	0名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 90.4歳	最低	85歳	最高	100歳

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	北摂総合病院、おかだクリニック、OKADA DENTAL CLINIC
---------	-------------------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

医療法人が市の要請を受けて開設した、10年以上の歴史がある1ユニット9名の平屋建てのグループホームです。母体法人の介護老人保健施設に併設されたホームは、幹線道路やマンションから少し離れ、田園も広がり、敷地内に約400坪のハーブ園があるという恵まれた環境にあります。特にハーブ園は、利用者が散歩や食事を楽しんだり、ハーブティーを飲んだり日々の生活の癒しや楽しみ場となっています。利用者は、ホーム単独では難しい、併設施設のリハビリや地域との合同行事への参加も多く、活動の場が広がり、楽しみに繋がっています。母体法人のクリニックがあり、健康管理面で連携がとれ、安心感を得ています。ホーム内は天井が高く、天窓からの採光があり、明るく広くゆったりとした共有空間が整えられています。各居室は、壁紙も一人ひとりにあわせて変えられ、鉢植えを育てたり、折り紙作品を吊ったりと可能な限り自由な環境での暮らしを支援しています。管理者、職員は理念の「輝いて共に生きる」を念頭に置き「利用者と一緒に楽しみながら生活する」ことを実践しています。職員の多くは介護福祉士の資格者で、離職者が少なく、馴染みのケアが実践され、できることを重視し、待つケアを大切にしているホームです。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連科目:外部4)
	前回の外部評価で改善点は3項目示されましたが、結果を真摯に受け止め、サービスの質向上に向けて積極的に取り組み、全ての改善が進みました。改善された3項目は①運営推進会議は年間計画を立て、2ヶ月に1回開催しています②同業者とのネットワークづくりは、市の事業所連絡会が実施する交流会に参加して情報交換を行い、市へグループホーム独自の連絡会の開催要請もしています。また、管理者は、他市町村のグループホームと情報交換を行い、質向上を目指して職員同士の交流やホームの見学を計画しています③災害非常時の飲料水や食事の備蓄もあります。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
重点項目②	自己評価の意義について職員全員が周知しています。自己評価票は、職員全員が意見を提出し管理者がまとめています。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
重点項目③	運営推進会議は規程を掲げ、市の地域包括支援センター職員や自治会代表、家族・利用者が参加のもと2ヶ月に1回開催されています。ホームの行事の取り組みや報告とともに、外部評価についても報告しています。自治会参加者より「グループホームの取り組みや理解が深まった」などの声があり、運営推進会議を通じて地域との交流が深まっています。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
重点項目④	ホームに意見箱を設置するとともに家族の訪問時には利用者の様子を伝え、意見を聞くように努めています。家族の面会も多く、行事の参加者も増えてきました。管理者はできるだけ利用者と家族の関係や家族同士の交流ができる場を提供し運営に反映できるよう努力しています。
	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	近隣の散歩に出かけた際やスーパーマーケットへ朝夕の食材や日用品の買い物に出かけた際には、地域の人たちと会話を交わっています。また、小学校や中学校への文化祭や運動会にも訪問しています。敷地内にあるハーブ園へは地域の人が自由に入力できる環境になっています。市からの要請を受け「子育て支援事業」を担い、地域の子どもたちや親世代との交流も広がっています。

## 2. 調査報告書

(  部分は重点項目です)

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人理念として「輝いて共に生きる」を掲げています。この理念のもとグループホームでは、利用者と家族と職員皆が輝くために「ゆっくり」「一緒に」「楽しむ」ことを柱として、日々のケアに取り組んでいます。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は敷地内の石碑に刻まれています。管理者と職員は常に理念を念頭に置き、利用者が自分自身のペースを大切に、楽しんで生活できるよう支援しています。職員は、入居後も利用者と家族の関係を繋ぐため家族との話し合いを大切にしています。また、職員も楽しみながら一緒に生活をする視点を持つことで「輝いて共に生きる」ことを具体化しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 地域との支えあい					
3	5	<p><b>○地域とのつきあい</b> 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに務めている</p>	<p>開設後10年が経過し、ボランティアや地域住民、幼稚園・小・中学校、老人会との交流も広がり、文化祭や運動会、祭りなどの行事へ参加しています。地域の方の勧めで、利用者の作品が老人会の作品展に出品されました。日常的にも近隣スーパーへの買い物や散髪などに出かけ、地域住民とも顔なじみになりました。敷地内のハーブ園には、地域の方が自由に訪れ、交流の場となっています。また、事業所として市からの要請を受け「子育て支援事業」を担い、地域の子どもたちや親世代との交流も広がっています。</p>		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	<p><b>○評価の意義の理解と活用</b> 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>管理者は評価の意義を理解し、自己評価については全職員に伝え、職員と共に取り組んでいます。また、前回の外部評価結果も真摯に受け止め、改善へ向けて取り組んでいます。具体的な取り組みとして、外部評価の結果を回覧し、職員各自が評価結果についてレポートを作成しています。検討会では職員の意見を集約して、ケアの向上に共に取り組んでいます。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>昨年までは、3ヶ月に1回の運営推進会議の開催でしたが、規程を定めて年間計画を立て、2ヶ月に1回開催しています。会議は、地域包括支援センターの職員か市職員・民生委員・自治会代表・利用者・家族代表が参加し議事録にも残しています。会議では外部評価の結果報告やホームの取り組みを説明し、地域の情報交換等が行われ、参加者からアドバイスを得ています。運営推進会議の規程はありますが、今後は、規程に「守秘義務」を記載してはいかがでしょうか。</p>		
6	9	<p>○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会づくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>運営推進会議の報告書や外部評価結果は市の担当者に提出しています。市の学習会や交流会は、サービスの質向上のため積極的に参加しています。この1年間の事故発生は数件でしたが、発生時には書面により市へ報告しています。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	定期的に「ブルーベリー便り」を発行し、行事や外出などの様子を伝えています。家族の面会が多く、来訪時には近況を伝えると共に、行事への参加を積極的に働きかけ、利用者の様子を知ってもらう機会にしています。預かり金は金銭出納簿を作成し、ほぼ毎月、家族に報告後、確認のサインをもらっています。領収書についてはホームでコピーを残し、原本を家族に渡しています。今後も「便り」を工夫し、利用者一人ひとりの生活の様子を伝える工夫が期待されます。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会が多く、職員との関係が構築され意見や苦情を直接聞く関係ができています。苦情箱の設置をしていますが、この1年間苦情はありませんでした。また、家族会はありませんが、年数回、家族交流の場を設け、家族の意見や要望を聞いています。日々行事への参加案内をする中で家族の参加も増え、家族の交流の機会となっています。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者は、顔馴染みの職員によるケアの重要性を認識し、勤務シフトの工夫や学習の機会など職員のモチベーションを高め、働きやすい環境作りに努力しています。結果として、離職や職員の異動はほとんどなく、利用者に対し馴染みのケアが実践されています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	採用時研修は法人として実施しています。併設の介護老人保健施設で基本的な介護技術を学び、グループホームへ配属となります。この1年間に、内部研修は法人主催で毎月開催され、「感染症」「認知症」「緊急時の対応」の研修も実施しています。外部研修は3回の参加があります。研修参加者は報告書を作成し、伝達研修も行っています。管理者は、スーパーバイザーとして研修も受け、職員の育成にあたっています。今後は、グループホーム独自の年間研修計画を立て、職員のレベルに応じた育成が期待されます。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市の事業所連絡会が実施する交流会に参加しています。グループホーム独自の交流会ではありませんが、その場を活用し情報交換を行っています。管理者もリーダー研修等を通じて他市町村のグループホームと情報交換を行い、質向上を目指して職員同士の交流やホームの見学を計画しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	併設の介護老人保健施設の利用者が入居することが多く、入居前にホームの様子や利用者・職員と顔馴染みの関係ができています。見学はいつでも可能で、地域の方が見学・相談に訪れます。入居前には必要に応じて自宅を訪問し、家庭環境や生活状況等を把握してホームに馴染める環境づくりをしています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者と共に生活を楽しむ視点を大切にしており、日常的に野球や相撲の観戦、ハーブ園への散歩など四季の変化を共に感じながら生活しています。また、できることを活かし、フロアのモップかけ、新聞のホッチキス留めなど役割を決めて、お互い協働しながら生活しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりから得意なことや生活歴を把握し、利用者一人ひとりの思いを聞き取り、センター方式の書面に残しています。好きな折り紙やぬり絵を居室の机に保管し、好きな時間に作成し、楽しんでいます。家族と話し合い、室内で植物を育てている利用者もいます。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者や家族の思いや意向を聞き、意見を反映するためミーティングを行い、全職員が参加して個別の介護計画を作成しています。作成した介護計画を利用者や家族に説明し、同意のサインを得ています。職員は計画を把握し日々のケアを実践しています。今後は身体面だけでなく、プラス面の評価と共に、楽しみや生きがいに繋がる利用者の反応等の記録も残すことが期待されます。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は、6ヶ月毎に見直しを行い作成しています。利用者の状態が変化した場合は、その都度家族を交えて見直しを行っています。管理者と計画作成担当者は、職員の声を計画に反映できるよう、定期的にミーティングを行っています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援（事業所及び法人関連事業の多機能性の活用）					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や家族の要望に応じて、緊急時の医療連携や通院介助を行っています。入居希望がありホームでの対応が困難な場合には、利用者や家族の状況を聞き、必要な機関を紹介しています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援の協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体法人の医療機関と連携しており、1ヶ月に2回往診を受け、健康管理や投薬の指示を受けています。受診の希望については、利用者や家族の要望を聞いて対応しています。かかりつけ医に継続して受診している利用者もいます。受診結果は家族へ報告していますが、利用者の状態を把握するために可能な限り同席を依頼しています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期のケアは、ホームが対応し得る支援の範囲について入居時に説明し、同意を得ています。入居後も利用者の状態に応じて、家族や利用者、かかりつけ医と繰り返し話し合い、方針を決定しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は入職時に守秘義務について誓約書を交わしています。職員間で言葉遣い等が気になる場合は、お互い注意しあう環境ができています。現在、利用者の要望があり椅子や洗面台に名前を貼り、場所や物を確認することで自立に繋がっています。新しい利用者には、名前を付けるホームの方式を説明し、納得が得られた上で実施される等、一人ひとりの利用者の気持ちへの配慮を検討されることが望まれます。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝の体操などの日課はありますが、利用者一人ひとりのペースを尊重し、時間を区切った過ごし方はしていません。ケアの場面でも手を出さずに、その人のできることやペースを見守りながら待つ介護を心がけています。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	昼食は併設の老人介護保健施設から調理済みで提供を受けていますが、朝・夕食はホームで調理しています。献立は利用者の希望を取り入れ、近隣スーパーへの食材の購入、料理、配膳、後片付け等、利用者と職員が協同で楽しみながら行っています。職員も利用者と一緒に食事を摂りながらサポートしています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週2～3回のサイクルで入浴もしくはシャワーを実施し記録に残しています。日中は利用者の活動支援を重視しているため、職員の勤務シフトを工夫し、主として夜間入浴を行っています。ただし希望すれば、昼間のシャワー等も可能です。衛生面から、入浴を好まない利用者には、声かけ等の工夫により入浴を促がし、また清拭などでの対応も行っています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの利用者が、ホーム内の掃除や買い物、調理、食器の片付け、新聞の整理などできることの役割をもち生活しています。生活歴を把握し得意なことを大切にしながら、楽しみごとに繋がる支援をしています。室内で鉢植えを育て、ぬり絵や折り紙の作品を居室に飾り楽しんでいる利用者もいます。敷地内にあるハーブ園での昼食や散歩も気晴らし楽しみごとに繋がっています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は、近隣のスーパーに食材や日用品の買出しに行きます。敷地内にあるハーブ園は散歩のコースになっており、日常的に外気に触れ、季節を感じるができます。また併設の介護老人保健施設には日常的にリハビリや行事の参加で出かけています。散歩については、恵まれたハード面に満足することなく、時には敷地外にも足を伸ばし、更に地域との交流を深めることが期待されます。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中玄関は開錠し、自由な暮らしを支援しています。家族や地域の方たち、ボランティアの方も自由に入出りが可能です。職員は、利用者の自由な暮らしを保障しています。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害マニュアルを作成し、消防署の指導を受け、消火器の使用方法や夜間を想定した避難訓練を実施しています。この1年間で併設施設の訓練とあわせて4回実施しています。災害の発生時に備えて、3日分の食料・飲料水などの備蓄もしています。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日々の食事量・水分摂取量は記録しています。昼食は、併設の介護老人保健施設よりカロリー計算した食事が提供されています。朝・夕食は、ホームで利用者の嗜好を取り入れた食事を提供しており、定期的に管理栄養士が栄養バランスのチェックを行っています。体重のチェックとあわせて日常的に医療と連携をとり、健康管理が行われています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関を入ると、天井の高い広々とした食堂兼リビングがあり、天窓からの採光で明るく開放的でゆったりしたスペースとなっています。リビングから庭にでることもできます。ソファに座ると農作業をしている人や庭に干している洗濯物が視界に入り、日常生活を感じることができます。食後、利用者同士がソファでゆっくり会話やテレビを楽しみ、寛げる場所になっています。壁には、職員と利用者が作成した季節感あふれる作品の展示がありました。旧基準で建てられたホームで、トイレ・洗面所は家庭的な構造とはいえませんが、掃除は行き届き清潔感ある空間です。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた馴染みのタンスや机、仏壇、家族の写真、鉢植え、ぬいぐるみや使い慣れた身の回りのものを自由に持ち込むことができ、居心地よく過ごせる工夫をしています。折り紙の作品で壁面を飾っている利用者もいます。居室の壁紙やカーテンも利用者に合うものを入居時に考えるなど、細やかな配慮がみられます。そのため一人ひとりの部屋の雰囲気が異なり、その人らしい部屋になっています。		